

朝鮮時代の風水から見た集落の空間認識と対応方式に関する研究*

A Study on Spatial Structure and Countermove of village at the Feng-Shui During the Chosun Dynasty*

金暻完**・仲間浩一***

By Kyungwan KIM**・Koichi NAKAMA***

1. 研究の目的と位置付け

風水思想は中国の漢時代に体系化されたと言われている。風水思想の特徴的な自然観は自然の中に生命力があることである。陰陽の原理をもととする風水思想では、自然地形がもつ形状によって、色んな要素を陰と陽で解析する。風水は大きく陽宅と隠宅の二つの類型になっている。隠宅は死者の居住、すなわち、墓を決める風水であり、陽宅は生活している人の居住を決める風水である。そして、陽宅は住宅の風水と都邑の風水に分けられる。都邑の風水は共同体的な村落民たちが、彼らが住んでいる空間を認識して、解析する思想である。都邑風水を大きく分類すると、国都(kukdo)風水と都邑(doup)風水に分けられる。国都風水は遷都の過程から生まれたものであり、都邑風水は地方の邑の形成に関係がある。

風水の吉凶は、藏風・得水・方位および形局などを要素で判断することになるが、これらの要素、すべてをもっている吉地は珍しい。近代以前の朝鮮時代では自分たちの居住空間を風水地理的に認識した結果、不満足な場合に支配集団が遷都するケースは少なくなかった。これに対して、一般民衆が住む集落が移転するケースは、戦時の例外を除きほとんどない。前者が逃避的な対応方式であるとするれば、後者は解析によって自然条件と戦う積極的な対応方式といえる。ここで後者のために出て来たのが「裨補壓勝」(bibo-apsung)である。

*キーワード：風水思想、空間認識、裨補、地名裨補

**外国人員，工修，九州工業大学工学研究科

(福岡県北九州市戸畑区仙水町1-1，

TEL:090-9725-4647，E-mail:comboys70@yahoo.co.jp)

***正員，工博，九州工業大学工学研究科

(福岡県北九州市戸畑区仙水町1-1，FAX:093-884-3100，E-mail:knakama@civil.kyutech.ac.jp)

風水思想では、気が重要視される。気は強くも、弱くてもいけない。それで、気が強いところは「壓勝」をし、弱いところは「裨補」をする。都邑風水に「裨補壓勝」がよく見えるのは、村落民が移動する代わりに裨補をして欠陥を補充したからである。

裨補壓勝とは、自然環境の保完行為であり、西洋の自然支配の都市計画ではない東洋の伝統的な手法である。裨補壓勝とは自然と人間が調和することを目的としており、その方法には、山・池・森・寺・人工構造物の造営、地名の変更などがあるとされる。

既存研究では、村山智順の「朝鮮の風水」で国都風水と都邑風水の分類があり、都邑風水から裨補壓勝がよく見られると言っている。崔昌造(Choi Chang-Cho)は「韓国の風水思想」で風水説を1)陰陽五行説、2)着龍法、3)藏風法、4)得水法、5)定穴法、6)坐向論、7)形局論の7つに分類した。芮明海(Yea Myung-Hai)は形局論では地形保完のため地名が使用されたと言っている。金暻完(Kim Kyung-Wan)は咸安郡(Haman-Gun)の地名の中で風水的な地名が使われていたことを確認した。

本研究では、既存研究の風水説と裨補壓勝論を基にして、韓国の集落の中での地形と形局に対しての地名裨補の使用例を確認する。これにより、裨補壓勝による自然保完行為の体系の一端を明らかにすることが目的である。

2. 研究の方法

研究方法は朝鮮時代の地理書である大東輿地図(1861)、擇里志(1714)、慶尚道地理志(1425)、慶尚道邑誌(1823)、新增東国輿地勝覽(1530)、咸州誌(1587)などを参考資料として、朝鮮時代の風水思想、空間構成、地名などに関する内容を分析して、

分析した内容を参考して現地踏査を実施した。今回の現地踏査は韓国の慶尚南道咸安郡を対象にした。

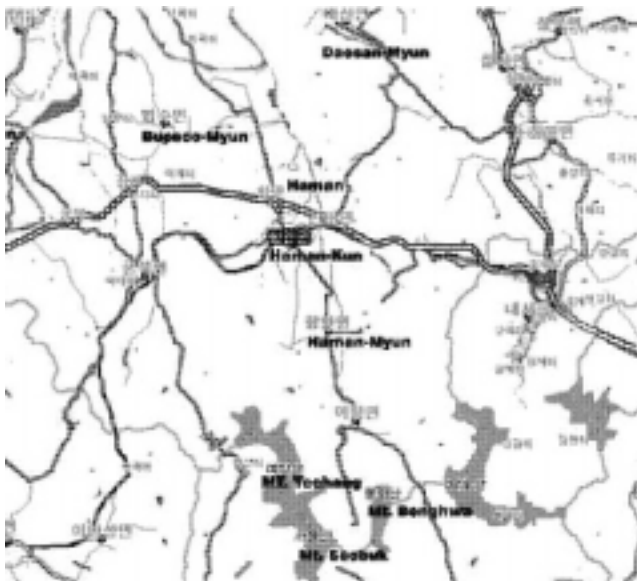


図 1 咸安郡の地図

3. 禊補の定義と構成

(1) 禊補の定義と概念

禊補は自然の地理的與件に人為的な行為を行って住居環境の改善することによって、理想郷を構成することを目的とする。禊補は自然環境の保完行為であり、西洋の自然支配の都市計画ではない東洋の伝統的な手法である。

禊補の種類には佛教的禊補と民間信仰的禊補と風水的禊補がある。

佛教的禊補は禊補の動機と禊補の手段が佛教的な禊補形態で、信仰的な性格をもっている。新羅時代の寺・塔などが代表的なものである。高麗時代まで全国的に流行した。

民間信仰的禊補は村落で行われたもので、地方によって異なる禊補手段と禊補形態をもっている。

風水的禊補は禊補の動機と禊補の手段、過程、立地がすべて風水思想に基づいている。高麗時代の初期から始まって、朝鮮時代になるといろいろな形態と機能をもったものが出てくる。その中には風水思想だけでなく佛教と民間信仰が複合したものまであって、禊補の全盛期ともいえる。

(2) 禊補の形態と機能

前説したように、禊補とは自然と人間が調和す

ることを目的としており、その方法には、山・池・森・寺・人工構造物の造営、地名の変更などがある。

村落民たちは自然環境に対する禊補的装置と経路を通じて、自然に対する居住環境の改善と不安要素を解決する機能をもつことができた。

これは、集団が環境認知の上、心理的な不安要素がある場合、禊補を通じて適切に解消して、その集団に環境心理的な安定と調和をもたらすことである。

4. 地名禊補

(1) 地名禊補の体系

地名禊補は、高麗初期からあったと言われており、他の禊補(山・池・森・寺・人工構造物の造営)をした後にする人が多い。

地名禊補は大きく象徴的地名禊補と形局地名禊補に分けることができる。

象徴的地名禊補は、都邑の空間構造が理想的な風水都市の空間構造と異なる場合、それを改善するために行うものである。物理的な禊補とは違って、地名を呼ぶことによって地形を変えようとする集団の心理を表すもので、心理的な禊補とも言える。咸安の場合は逆風水の地形を改善するために他の地域より多く見られる。

形局地名禊補は、町ごとに山や河川などの形局によって部分的に機能する場合が多く、風水思想の中で形局論を説明する時によく使える。部分的に気が強いとか弱いとか気の流れが人間に悪い影響を与えると判断した場合に形局保完の機能と地勢を鎮壓するための例が多い。象徴的地名禊補に比べて全国的に見られる地名禊補である。

(2) 地名禊補の実例

(a) 象徴的地名禊補の実例

咸安の地形は南高北低である。朝鮮時代咸安の村落民たちは自分たちの居住空間を風水地理的に認識した結果、逆風水の地形であることがわかった。それを解消するためいろいろな物理的な禊補をした。

しかし、それによっても、逆風水の地形を変えることは無理であった。したがって、最後に象徴的・心理的な禊補である地名禊補をした。そうすること

によって、物理的な地形そのものの変化と意味的な「地形の構造」の変化を併用したと考えることができる。以下の7つの事例が確認できた。

1) 餘航山(yohangsan) : 咸安の南側にある山である。山が余って行く山という意味をもっている。他の由来には、本来は海であり、港になる山という意味もある。風水都市の空間構造では南側から川が流れ込むことが理想的だと言われる。しかし、咸安の南側には餘航山

(744m)という高い山があり、その山を変える必要があった。それで南側を平地および水の地形に変えようとする地名禱補を行った。

2) 代山(daesan) : 咸安の北側にある地名である。山の代わりと言う意味をもっている。理想的な風水の空間構造から見ると北は高いところである。しかし、咸安の北側は平地であって、高い山が必要であった。そこで、代山面と言う広い範囲に代山と言う地名を付けた。それで咸安の北側が山がある地域に変えたという心理的な意味をもつことになった。

3) 大山(daesan) : 咸安の北側にあった地名である。北の高い山を象徴する禱補である。代山と同様に咸安の北側を高くするための地名禱補である。風水の空間構造的には、北の高い山である咸安の主山とも言われる。

4) 竹山(zuksan) : 咸安の北側にあった地名である。竹の山の意味である。朝鮮時代にはここに竹林が広がったと伝われる。竹は風水思想では、北からの悪い気を防ぐための風水林とその地域の気を保つための禱補によく使われたものである。造山の代わりに森を作ったという例もあるので、竹山は造林・造山の禱補と言える。それをそのまま地名禱補にした事例である。

5) 南山(namsan) : 咸安の北側にあった地名である。南にある山の意味である。今も咸安の北側に地名は残っているが、朝鮮時代の位置とは異なる。北にあ



[: 餘航山 : 代山 : 大山 : 竹山 : 南山 : 末山 : 法守]

図 2 咸安郡邑誌(再作成)

る地域にもかかわらず南山と命名した。ここも平地である。朝鮮時代は、ここを風水の空間構造的に鎮山と言った。

6) 末山(malsan) : 咸安郡伽倻邑(gaya-up)にある地名である。山と命名された地名の中で一番南にあるところである。ここも咸安の北側にある地域である。現在咸安の中心地であり、郡の役所があるところである。風水的に咸安の明堂とも鎮山とも言う。

7) 法守(bupsu) : 咸安郡法守面の地名である。水を治ると言う地名である。風水では、水が町に流れ込むことが理想である。しかし、咸安はその反対で、咸安川(haman-chun)は南の餘航山から發願して北に流れて、気も咸安の外に流れてしまう地形であるため、この咸安川を治る必要があって命名された。朝鮮時代咸安は咸安川の氾濫で洪水に被害が多かった地域であったが、今現在は豊かな農業地域である。‘水’ではなく‘守’をしたのは韓国では守と水の発音が同じであるからであるし、咸安川を守るという意味ももつようにしたという説もある。

(b) 形局地名禱補の実例

形局地名禱補は、心理的地名禱補とは違って形局保完と地勢を鎮壓するため部分的に行われることが多い。以下の6つはその事例である。

1) 飛鳳山(bibongsan) : 咸安郡咸安面にある山である。朝鮮時代は、ここ咸安面が中心地であった。鳳凰が飛んで行く形局も山である。16世紀郡守で

あった鄭寒岡(Chung Hang-gang)がこの山が飛鳳形といったと言う。鳳凰が飛んで行くと町に不吉なことが起こると信じた。

2) 鳳城(bongsung) : 咸安郡咸安面にある地名である。鳳凰の家と言う意味をもっている。朝鮮時代は咸安の中心地であって、役所があったところである。役所の跡地が鳳城の中心であったが、今は学校になっている。

3) 鳳林(bonglim) : 鄭寒岡が鳳凰の餌になるように周囲に森を造ったと言う。今は痕跡しか残っていない。典型的な禊補林とも言える。禊補林を作った後地名禊補をした例である。

4) 徳村(dukchon) : 咸安郡郡北面(gunbuk-myun) 徳袋里(dukdea-ri)にある村である。村の入口である郡北小学校から村までに長い森があり、この森のお陰で村が繁盛するといつて、徳村と言う。森は風水林とも禊補林ともいえるが、「徳村」という名称は、地名禊補によって付けられたものである。

5) 碑神台(bishindae) : 徳村の中にある地名である。碑神台は(sotdae)であり、その上に木で作ったカラス3匹をのせた。これは徳村が風水(形局論)、行舟形であるから帆の役割をするようにしたものである。

6) 山(uhmisan) : 咸安郡漆北面(chilbuk-myun)にある山である。は慶尚道の方言で、お母さんの意味である。山の形がお母さんのチマ(スカート)と似ていることで山と言う。風水的に、子どもがよく生まれて、よく育てるといふ。形局地名の典型的な事例である。

5. 結論

本論文は、風水的な地名に関連して、都邑風水と地名禊補に関して明らかにした。その内容を要約すると次のようになる。

1) 既存研究における地名禊補の位置づけを明らかにした。

2) 地名禊補は大きく「象徴的地名禊補」と「形局地名禊補」と2分類することができる。

3) 咸安の地形は南高北低である。咸安の村落民た

ちは自分たちの居住空間を風水地理的に認識した結果、逆風水の地形であることがわかって、それを改善するためいろいろな物理的な禊補をした。しかし、それによっても、逆風水の地形を変えることは無理であった。従って、最後に象徴的・心理的な禊補である地名禊補をした。

4) 形局地名禊補は、村の中および近くによくみられることが確認できた。村の形局保完と地勢を鎮壓するために部分的に行われたと思われる。

5) 地名禊補は、物理的な空間操作によらない、意味的なイメージ構造の操作によって、居住環境の質を改善する方法である。

参考文献

- 1) 村山智順 : 韓国の風水、明文堂、1996 (朝鮮の風水、1931)
- 2) 崔昌造(Choi Chang-Cho) : 韓国の風水思想、民音社、1984
- 3) 芮明海(Yea Myung-Hai) : 鮮時時代 空間構成 関 研究、大韓建築学会論文集計画系 18巻7号、2002.7
- 4) 金暻完(Kim Kyung-Wan) : A Case Study on the application of the Feng-Shui in Haman、Landscape Frontier International Symposium 2002、2002.10
- 5) 金正浩(Kim Chung-Ho) : 大東輿地図(1861年)、草風館、1994
- 6) 李重煥(Lee Choong-Hwan) : 擇里志(1714年)、漢陽出版、1996
- 7) 韓国学文献研究所 : 新增東国輿地勝覽(1530年)、亜細亜文化社、1983
- 8) 慶尚道地理志、1425
- 9) 慶尚道邑誌(1823年)、亜細亜文化社、1982
- 10) 咸州誌、1587